

ご担当者	氏名
ご所属	
ご連絡先	住所 〒 電話番号 FAX 番号
派遣依頼主	
依頼責任者	
催事名称	
実施日時	催事全体の実施 年 月 日 午前・午後から 年 月 日 午前・午後まで _____ 時間 JaNP+スピーカーの担当時間（講演時間） 年 月 日 午前・午後から 年 月 日 午前・午後まで _____ 分
派遣場所	名称： 住所： 当日電話連絡先：
企画概要	プログラム概要、その他の講演者とテーマなど
講演目的 (複数可)	<input type="checkbox"/> HIV 陽性者の理解 <input type="checkbox"/> 患者としての HIV 陽性者の理解 <input type="checkbox"/> 薬害問題の理解 <input type="checkbox"/> HIV・エイズ問題の全般的理解 <input type="checkbox"/> 人権全般 <input type="checkbox"/> 差別偏見の解消 <input type="checkbox"/> 就労 <input type="checkbox"/> 予防全般 <input type="checkbox"/> セクシュアリティと性行動 <input type="checkbox"/> ジェンダー <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> その他 (_____)
形式	<input type="checkbox"/> イベント <input type="checkbox"/> 講演 <input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> その他 (_____)

添付資料 2. HIV 陽性者スピーカー派遣要請機関のニーズ調査中間報告（抜粋）

調査期間 平成 16 年 2 月 15 日～3 月 15 日

調査対象 2002 年 4 月から 2004 年 2 月までに JaNP+に対して HIV 陽性者スピーカー派遣依頼のあった、機関（行政、教育、保健、医療、NGO/NPO）機関の担当者に対して、調査票を e-mail にて送付し回答後返信。

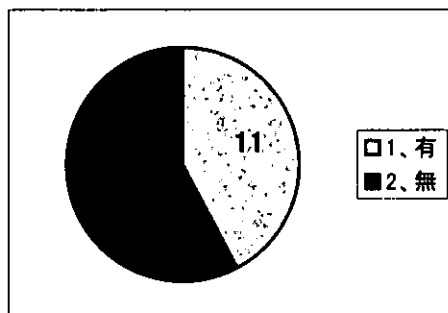
調査票送付数 51

有効回答数 26

集計方法 単純集計

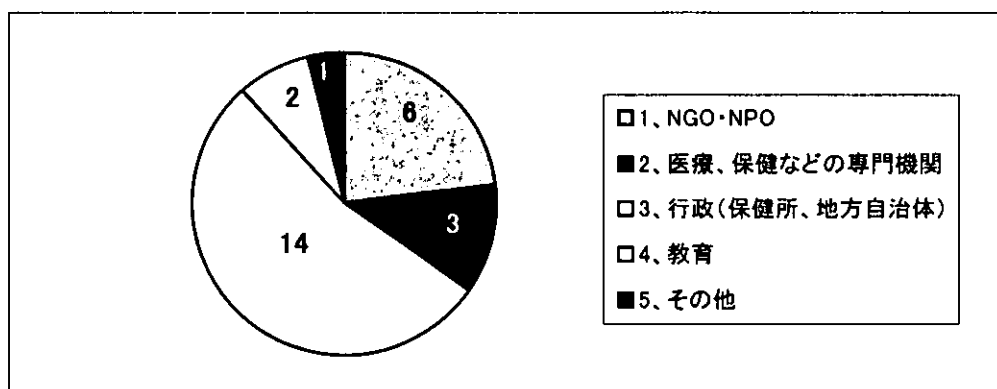
質問 1 JaNP+への HIV 陽性者スピーカー派遣をご依頼いただく以前に、どなたか HIV 陽性者のスピーカーをお招きになった経験はありますか？

1、有	11
2、無	15



質問 3 JaNP+への HIV 陽性者スピーカー派遣を依頼された主催者のお立場をお答えください。（ご担当者のお立場ではなく主催機関、団体等についてお願いします）

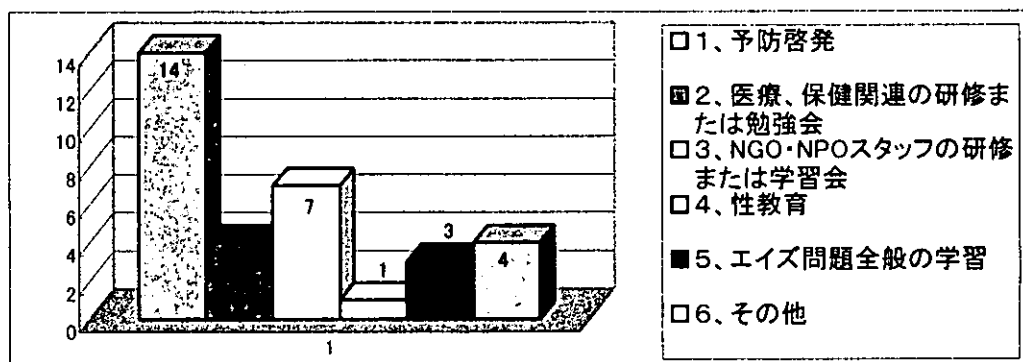
1、NGO・NPO	6
2、医療、保健などの専門機関	3
3、行政（保健所、地方自治体）	14
4、教育	2
5、その他	1



質問4 JaNP+への HIV 陽性者数ピーカー派遣を依頼された催事の目的はどのようなもの
 だったでしょうか？（複数回答も可）

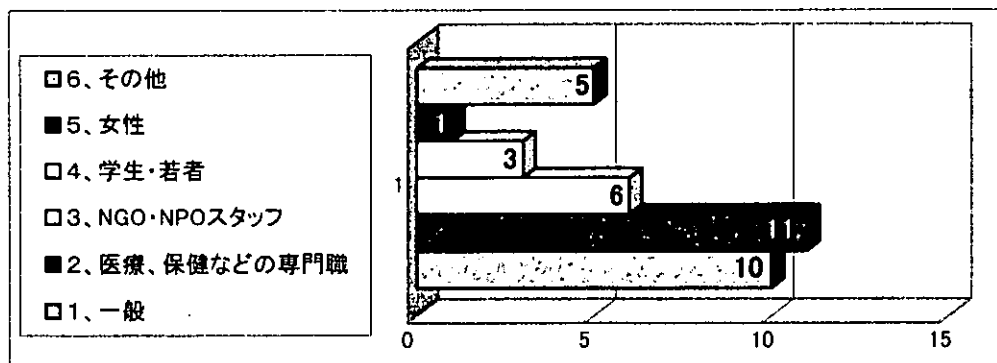
1、予防啓発	14
2、医療、保健関連の研修または勉強会	4
3、NGO・NPO スタッフの研修または学習会	7
4、性教育	1
5、エイズ問題全般の学習	3
6、その他	4

その他=HIV 陽性者のための講習会、医療従事者向け出版



質問5 JaNP+への HIV 陽性者数ピーカーを依頼された催事の対象者はどのような方だった
 でしょうか？（複数回答も可）

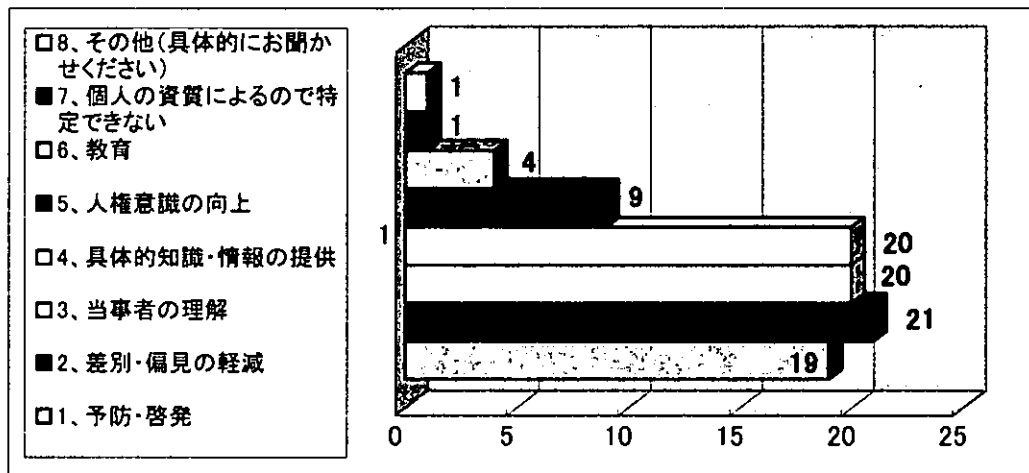
1、一般	10
2、医療、保健などの専門職	11
3、NGO・NPO スタッフ	6
4、学生・若者	3
5、女性	1
6、その他	5



質問 10 HIV 陽性者スピーカーはどんな役割を果たせるとお考えですか？

1、予防・啓発	19
2、差別・偏見の軽減	21
3、当事者の理解	20
4、具体的知識・情報の提供	20
5、人権意識の向上	9
6、教育	4
7、個人の資質によるので特定できない	1
8、その他（具体的にお聞かせください）	1

その他=セクシュアリティ、性の自己決定、薬害の再発防止、
生存権と社会福祉サービス当事者の決定への参加の促進



自由記述による質問

質問 9 JaNP+から派遣したスピーカーの内容、技術などお気づきになったことをご自由にお聞かせください。

- ・ カタイ話もスピーカーの方の技術で噛み砕いて、また、和やかな雰囲気の中でしていただけた
- ・ (当事者だからこそ許される?) 直截な表現で切り込むことができ、聞き手にも明解なメッセージとして伝わると思います。
- ・ 重たくなく、明るく、気軽に話していただけたのでとてもよかった。
- ・ 3 時間のイベントの中の一部に出演をお願いしたのですが、イベントの流れに応じた

話を聞かせていただきましたし、他の出演者のフォローもしていただきました。

- ・ まだ不慣れな行政職員には、これから業務を展開していくための教育的配慮、若者とは同じ目線で語りあっていただき、幅広いスタッフでしたが、その場の状況に応じた対応をしていただき大変助かりました。
- ・ 英語から来ている専門用語は口頭においてもカタカナ表記においても初心者には具体的に何を指しているのか判断できない場合が多々あり、言い換えをいただけると初心者にも習得できる部分が増え、参加した意義が大きくなると思われる。
- ・ あまり聞きなれない用語もあり内容理解が若干難しい部分あり
- ・ とても貴重なお話をいただいた
- ・ 話の中で、最新のデータ等も教えていただきました。
- ・ 機会を作ってまた派遣をお願いしたい。
- ・ 大変わかりやすく、当事者の実際の生活、生き方を聴くことができた。
- ・ 初めて聞く内容だった。
- ・ 感染者の生の声を聞くことができたのが参考になった。
- ・ 日本人が社会的常識にとらわれやすいことを再認識した。
- ・ 普段聞けない話が多く参考になった。話題にしにくい内容を科学的に整理されわかりやすかった。
- ・ 同性愛者のことはよく知らなかったし偏見を持っていると思う。しかし、今後は学校における健康教育を行うときには、「この中にも同性愛のこどももいるのかもしれない」という気持ちで行いたい。
- ・ 感染者側からの具体的な話でわかりやすく参考になった。
- ・ 視野が広がった。予防の具体的な支援について考える必要があると感じた。
- ・ ゲイの方の話を書く機会は少ない上に、性的健康について深く考えさせられる有意義な講演だった。目からウロコがおちた。
- ・ MSM のセクシャルヘルスについては、知らないことが多いので参考になった。甲府市の幼稚園の問題や、ハンセン病療養所入所者の宿泊拒否問題についても話が聞きたかった。
- ・ 実際の話ストレートに聞けてよかった。ただ、残念なのは、ここまで熱意があるが経験に基づく話題が多かったために、若干客観性に欠けていたこと。もっと裏づけがあるものがあれば。もったいない。
- ・ 普段聞けないような話で常識をとりはらえそう
- ・ 「性」について漠然とらえていた部分を本当にしっかり考えさせられた。ちょっとだけ混乱した気が…

質問 11 質問 10 (HIV 陽性者スピーカーの役割) を果たすために HIV 陽性者スピーカーのどのような話が効果的だとお考えですか？ 自由なご意見をお聞かせください。

- ・ 投薬の実情
- ・ 仕事、趣味、好きな食べ物などH I V以外の普通に生活している話を聞くことで偏見が軽減されるのでは？
- ・ 当事者が考える当事者が果たすべき役割
- ・ ご本人の体験経験
- ・ グローバルな視点からの当事者のネットワーク、権利擁護、アドボカシー
- ・ 自身の体験がベースとなるので、偏りをなくすには多様なバックグラウンド、パーソナリティの方が複数同時に露出することが必要。
- ・ 「予防」という行為が非感染者だけではなく、感染者にとっても二次感染や CD4 数低下時の発症の面から重要であることを伝える話。
- ・ 「死なない病気」ではあっても、人間関係から保険適用や障害者認定を受けない場合の高額の治療費や QOL の低下など、「感染前と同じ生活はできない」ことを強調した話。
- ・ 率直な意見の表明
- ・ 予防啓発に対しては、感染者が生活を送る上で感じる不都合や負担についての話。
- ・ 差別・偏見の解消、当事者の理解に対しては、漠然としてしましますが、聞き手の共感を得られるような話。
- ・ 話せる範囲での具体的な経験談やそのときの思い
- ・ ゲームでも、カラオケでもいいので、何か一緒に体験できるといいと思います。
- ・ 講師の先生や特別の存在としてではなく、話を聞く側の人と同じように生活を送っている一個人として話をして欲しい
- ・ 差別や偏見については、知らないから失敗することもあるれば、知らないから傷つけるのがこわくて遠ざかる人もいると思うので、そのスピーカーの方の感じ方によるかと思いますが、付き合い方について具体的なアドバイスをしていただきたい。
- ・ HIV 陽性者は増えているとはいわれていますが、実際身近にいると感じている人は少ないように思いますので、会えるだけで、HIV に感染するということが実存していると感じられるし、HIV 陽性者は自分たちと何の違いもないという認識が持てるような気がします。
- ・ 病気と病気を持っている人の違い、何を恐れるべきかが伝わるような気がします。
- ・ 一般の方はH I V陽性者と接する機会があまりないので実際の生活やHIV陽性者であることで変わった意識、治療での体験などをお話ししていただきたい。
- ・ 行政やNGO、NPO が HIV／エイズの予防啓発・医療の向上、差別・偏見解消の啓発活動を行っているが実際効果があるのかどうかをH I V陽性者の立場から意見をいただきたい。
- ・ 感染の経緯、告知後の心境、差別を受けた経験、差別を受けた経験
- ・ 感染の事実を知ってから、考え方や生活スタイルがどのように変わっていったかなど、

聞く人が第三者的な立場でなく、当事者の立場に立って考えられるような話をしたい。
いただきたい。

質問 12 HIV 陽性者が社会に対して貢献できるとすると、どのようなことがあるとお考えになりますか？

- ・ 健康管理を第一に発症を避け、元気に生活していただくのが一番かと。
- ・ 若者との対話など
- ・ 当事者が主体的に調査研究に参加すること（研究者の一員として、または研究デザインの段階から）
- ・ 当事者の高齢化を見据え、介護、福祉サービスに関わり、社会資源を開拓すること
- ・ 予防・啓発プロジェクト（しかし「Do」ではなく「being」の視点を忘れてはいけないと思います）
- ・ 日本のように諸外国に比較して HIV 感染者がまだ、それほど多くない状況では、HIV 感染者が気楽に気楽に話をする事が真の理解につながる
- ・ 研究面（HIV 間研究への貢献は HIV 感染症だけではなく、ウイルス感染症、癌、免疫学への貢献にもつながります。
- ・ 感染者数が減少しない現実では、我々が恋に落ちる相手、セックスをする相手が陽性者であっても不思議ではなく、陽性者と共に生きること意識するように呼びかける。それが、予防への行動変容や差別・偏見の排除に繋がると思われる。
- ・ 啓発活動
- ・ 相談受付
- ・ 予防や当事者の理解促進のための講演活動
- ・ 各種啓発活動への助言
- ・ HIV 陽性者の福祉施設の利用を通じ、「感染症」（MRSA や肝炎など）であるからといって利用できないという状態を見直し、少しずつですが、利用しやすい環境づくりにつながっています。
- ・ HIV/AIDS の話のときには、性的指向や国際的な問題についても考える機会になります。
- ・ やはり多くの人達が自分達には関係のないことだと思っているのではないかと思います。この社会には感染者もたくさんいる、しかし、ほとんどの人達がそれを隠さざるを得ない状況にあることを、多くの人たちに伝えてもらいたい。特に若い世代には、勝手なことを申しますが、メディアを用いることが有効かと思われま。
- ・ 当事者として説得力のある啓発ができる。
- ・ 患者の立場から、現在の医療体制や行政施策等への指摘や助言をいただくことにより、それらの発展に寄与できると考えます。

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

「個別施策層に対する固有の対策に関する研究」平成 15 年度研究報告書

発行日 平成 16 (2004) 年 3 月

主任研究者 樽井 正義

108-8345 東京都港区三田 2-15-45 慶應義塾大学文学部樽井研究室

Tel. & Fax.: 03-5427-1131 E-mail: tarui@flet.keio.ac.jp